

# 学校保健通信

2017.4.7  
No.481



## 部長会議のご案内

**6月3日(土) 10:30~16:00**  
**(17:00~ 交流会)**

**高教組本部 大会議室(4F) 札幌市中央区南大通西12丁目**

例年と同様、部長会議に向けたアンケートを行います。  
支部の仲間はもちろん、組合員でない養教にもできるだけ声をかけ協力をお願いしてください。

会場が確定次第、通達とアンケート用紙を発送します。可能な限り、メール添付でもお送りします。本来は支部長あての通達ですが、昨年度と同じように全養教部組合員あてに送付します。各支部での声かけ、取りまとめ等の取り組みをお願いします。

**アンケートで寄せられたみなさんの声が、活動の貴重な材料になっています**

**今年度の予定です** **6月3日** 部長会議  
**9月2日** 全道養護教諭研究集会  
**1月27日** 総会

この3つすべての日程が女性部とかぶっています。申し訳ありませんが、それぞれの参加者を調整できるよう、支部女性部の仲間とも話し合ってください。研究集会は女性部と共催の方向も検討中です。



## 仲間が増えました!

留萌支部で期限付きの方が加入しました。長らく0人支部だった留萌支部、復活です。

## なつがくのご案内

**7月29日(土)・30日(日)**

**全電通労働会館(JR御茶ノ水)・アルカティア市ヶ谷・エデュカス東京(市ヶ谷)**

全教養教部主催 「保健室からの発信～夏の学習交流集会」  
全国あらゆる校種の養教が大集合して、実践を中心に熱く語り合います。  
(裏面坂口さんのメッセージを読むと、その雰囲気はよ～くわかります)

ネットより本より、刺激的なこと請け合い!すべての養教におススメです。  
より多くの方にこの感動を味わってもらうため、組合員には旅費を補助します。(全額か一部かは参加人数によりけりですが、かなり大盤振る舞いを予定しています)

**今年の夏は東京に行くぞー**

# さびしい…今までありがとうございました。 ずっと仲間だよ!

## 退職にあたって

今日定年退職の御挨拶を教職員・生徒にして教職を終えました。静かに職を辞することができました。やはり年には勝てずここ数年は非常に疲労感があって、養護教諭2人体制での勤務であったことに助けられました。40年前始めて養護教諭が置かれることになった上富良野高校にて仕事が始まりました。高教組からすぐにお誘いがあり、働く者として入るのが当然…と答えすぐに仲間に加えていただいたのを記憶しています。若い先生が多く教職員のほとんどが組合に入っていて、学校行事は当然のこと、行事が無くても校内・校外で集まり、校外では初めてのサガリやホルモンを食しながら、教育に関して論議しあい、毎年2・3月になると校内の人事に関して組合で集まって誰が担任・部長などなどに希望を出すか打ち合わせ会をして教育は生徒と教職員が主体であることを仲間の集まりの中で学ばせてもらいました。次の勤務先である旭川東高校の19年間は高教組の養護教員部の仲間との交流で宿泊をしての会では、東川のペンション、美瑛パークヒルズのペンション、天人峡温泉、遊湯びっふ、枝幸の平田先生宅などなど、さまざまところで学習会・交流会を展開し支えられていたことを今日この頃になって思い出されます。高教組加入者数が減り、そのような学習・交流会も縮小し寂しさに思いを馳せながら、去ることになってしまいました。高教組で出会えた仲間はわたしにとっての宝です。

これからも何らかの交流があったらと願いつつ。

また機会があり高教組養護教員部の仲間とお会いできる機会のあることを念いながら。

長い間支えていただきましたことに感謝いたします。

ありがとうございました。

平成29年3月24日

旭川商業高校 酒井 美方子

## 感謝の気持ちでいっぱい

北海道札幌啓成高校 平間 順子

40年間の勤務でいろんなことがありましたが、やはり一番の思い出は月寒高校に勤務していた時、北海道で初めての複数配置指定校になったことです。初めてのことで何をどうしようかとずいぶん考えました。仕事の分担はもちろんです、パートナーの方と一緒に生徒が「ホッ」と心がなごむ保健室にしたいというのが一番でした。複数配置になってからは分担して仕事を進めることができ、相談できるパートナーがいることでとても心強く思いました。学級減に伴って複数配置が解消されてしまった学校も増えていますが残念なことだと思っています。

高教組の養護教諭は「仲間」でした。無事に退職の日を迎えることができるのも高教組の「仲間」がいたからです。公私ともに困ったときに助けられる「仲間」の存在は大きな支えでした。毎日、「大きな事故なく無事に一日が終わりますように。」と思いながら出勤し、何事もなく一日が終わった日はホッと安堵の気持ちで家に帰ることができました。そんな毎日を積み上げ、気がついたら退職の時を迎えることになりました。

支えてくれたたくさんの「仲間」に感謝しています。ありがとうございました。

## 高教組 養護教員部の皆さんへ

北海道白樺高等養護学校 坂口 友好子

春めくにつれ、次の春に生徒を迎える準備に緊張感を高めていました。それがもうないのだと思うと、安堵する気持ちと寂しい気持ちが交錯しています。

思い返せば、先輩の養護教諭に「おなか痛いと胃が痛いのは、どうしたら分かるんですか？」と聞き、言葉もなかった先輩の顔が今でも浮かびます。(笑)かという私は病気知らずで学校もほぼ休まない子どもだったので、痛みがわからずに本当に生徒には「ごめんなさい」、申し訳ないことだらけだったかもしれません。

特に組合の諸先生は、こんな私を責めるでもなく見守ってくれる空気に甘えて、怖いもの知らずに困ったことをいろんな先生に尋ねて、聞いてもらい、そしていっぱい元気をもらって職場に帰る日々をくりかえしていたことを、今更に思い出しました。そして、諸先輩とは未だに交流をいただき、複数配置の恩恵を受けて勤務させてもらってきたのですから、幸せ者ですよ。

後輩の皆さん!どうぞ積極的に近くでも遠くでも研修会には是非ご参加ください。

私は研修会のたびにいつも感じます。この空間に集まったのはみんな養護教諭。こんなに連帯感のある、熱い、安心感を生む職業がほかにあるだろうか?・・・と。道内はもちろん全国の研修会でさえ、あちこちで始まる「イヤ～元気だった?」から、隣に座った石川県から来た若い水産高校のか細い姿の先生と「・・・うん!それでどうした・・・ん?」と。今隣に座ったばかりなのに・・・これぞ高教組のつながりの原点だと思います。

そして手前みそながら、『養護教員部のあゆみ・30周年記念誌』を紐解いてみてください。「養護教諭の仕事とは何か?」「保健室の実践の原点」が、今も色あせずにたくさんの気づきをくれることでしょう。

ちょっとカビ臭い話にもなりましたが、歴史から学び、仲間の連帯を信じてがんばってほしい。

お世話になりました。感謝しかありません。愛を込めて仲間の皆様にバトンを託します。